

<講演概要>

新年度の第一回公開講演会は、鎌倉淡青会 20 周年記念行事を兼ねて、鎌倉商工会議所のホールにおいて、7 月 29 日に東京大学社会科学研究所長である 玄田有史 (Genda Yuji) 教授による「希望のチカラ」のタイトルで行われました。満席に近い会場でユーモアを交えたお話が 1 時間あまりなされた講演の概要は、バブル崩壊後の我が国のとりわけ若者達が将来の希望を持ってない状況に対して、研究の必要性を感じたことが発端だったとのことでした。希望とは何かを追求されつつ、苦難の連続を歴史的に経験した釜石市に尽力された八幡氏の貢献努力の中から、社会的に時間も労力も要するような大きな希望 (夢) の実現には、まずその希望を思いつく人、次にその内容に思いを込める人、第三にその思いを遂げる人、が存在すると考えればよい、と教えられたそうです。更に東日本大地震の現地調査から学んだこととして、夢の実現方法にも示唆を与え津波リスクの回避に役立ったという当地のある中学校での防災教育内容として、①従来の想定にとらわれないうで柔軟にベターな対応方法 (より安全な場所への退避) を考えること、②今やれることはすべて行う (津波避難中の山崩れリスクの回避) こと、③指示に頼らず率先して (周りの人にも避難の声かけをする) 行動すること、を紹介されました。最後に JAXA の宇宙飛行士選考時の好ましいとされる人の特性を、④桃太郎のような目標設定課題達成努力型人間よりも、⑤浦島太郎のようにその場をやりくりしてこなす人間、としているらしい点を参考に、社会で成功する人間タイプはその両方の特性を兼備した浦島桃太郎が望ましいかもしれないとの笑いを誘う説明もありました。



最後に、希望とは何かに対するいくつかの考え方として、育てていくもの/作っていくものであり、壁に突き当たってもがいて努力するうちに打開策として見つかるもの、誰かにバトン渡しをして実現を託すもの、とのまとめの言葉があり、大きな拍手の中で終了しました。その後活発な質疑応答のち閉幕しました。